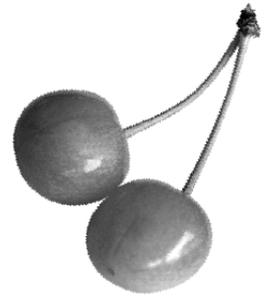


【特集】サクランボづくりに挑戦

地域の活性化を目指し、久住でサクランボを栽培 稲田克忠さん（高尾 78歳）



久住でサクランボ

真っ赤な実がなる

地域のジゲおこしにつながれば。

久住地区でサクランボづくりに取り組んでいる稲田克忠さん。サクランボは、高温多湿や雨が苦手で、この地方では栽培が難しいとされています。

試行錯誤を繰り返しながら、地域の活性化を目指し、サクランボを栽培する稲田さんを紹介しします。

赤い宝石みたいと

園児は大喜び

久住地区でサクランボづくりに取り組んでいる稲田克忠さん（高尾・78歳）が、経営しているサクランボ園（セルサル久住）に、6月6日、町内保育所の年長園児たちが招待されました。

園児38人は、農園の人たちにハウス内を案内してもらい、自分たちで採って、真っ赤に熟したサクランボを味わいました。

園児たちは「甘くておいしい。いくらでも食べれるよ」「赤い宝石みたいでとてもきれい」と言いながら何個も口の中にほお張っていました。

この保育園児サクランボ狩りは「子どもたちに真っ先に味わってほしい」と稲田さんが、一昨年からは、食べごろになった6月上旬に町内保育園児を招待しています。

佐藤錦やナポレオン

226本を栽培

サクランボづくりは、平成2年ごろから栽培を始め、平成13年に本格的にオーブン。当初30アールだった農園も、現在は70アールの県内最大規模を誇るようになりました。

園内には、ルビーのような美しさと甘さが特徴の「佐藤錦」や「ナポレオン」など全6品種、226本を栽培しています。



真っ赤に熟したサクランボにうれしそうな園児

秋には、さらに栽培面積を拡大し、ハウスを増設することになっています。

4月中旬ごろには 白い花が咲き乱れる

サクランボは、苗木（約50本）から、15年程度で成木になり、安定して実をつけるようになります。

4月中旬から下旬にかけて白い花が咲き、実をつけます。蜂を使って交配（受精）させ、6月上旬から中旬にかけて真っ赤に熟します。

農園にある木は、11年目の幼木で、もう少しで、たくさん実るようになるのでは」と稲田さんは話します。

今年の出来は、全体の約1割程度。38年ぶりに5月下旬



栽培ハウスが一面に広がるサクランボ園